

.

北軽井沢の山荘庭では、夏の楽しみの一つであるレンゲショウマが、ようやく満開に近い時期を迎えました。今年は気温の低い日や日照時間の少ない日が多かったためでしょうか、開花の進み方は昨年よりもやや遅めでした。それでも庭に咲いている花を一つ一つ数えてみると、なんと 104 輪。淡い紫を帯びた白い花が林床のあちらこちらに浮かぶように咲き、今年も見事な群落になりました。

レンゲショウマの花は、細長い花柄の先にぶら下がり、ほとんどが下を向いて咲きます。その花々の間を忙しそうに飛び回っていたのが、トラマルハナバチです。橙褐色のふさふさした毛に覆われた大きな体で花に取りつき、下向きの花に潜り込むようにして蜜を吸っていました。吸蜜を終えると、すぐ隣の花へ、さらに次の花へと移っていきます。

トラマルハナバチは長い口吻をもつマルハナバチの仲間で、筒状になった花や蜜の位置が深い花を利用するのが得意です。レンゲショウマを訪れる際には、蜜を得る一方で体に花粉を付け、別の花へ運ぶことで受粉にも一役買っていると考えられます。

静かな山荘の庭で、104 輪のレンゲショウマと、その花を次々に巡るトラマルハナバチ。開花は少し遅れましたが、今年も盛夏の北軽井沢らしい、小さくもにぎやかな生命の営みを見ることができました。

(2026 年 8 月中旬／北軽井沢)

